1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	**持ち直している**	↗

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、ドラッグストアが順調となっているほか、スーパーが底堅いものとなっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が持ち直しているほか、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直しており、電気機械が緩やかに持ち直しつつあることから、全体としては持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	→
生産活動	一進一退の状況にある	**持ち直している**	↗
雇用情勢	持ち直しつつある	**持ち直しつつある**	→
設備投資	8 年度は前年度を下回る見込み	**8 年度は前年度を下回る見込み**	→
企業収益	8 年度は増益見込み	**8 年度は増益見込み**	→
企業の景況感	現状判断は「下降」超	**現状判断は「下降」超**	→
住宅建設	前年を下回っている	**前年を下回っている**	→
公共事業	前年度並みとなっている	**前年度を下回っている**	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、飲食料品等が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、ファーストフードや飲料に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、化粧品や食料品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、パソコンの動きが鈍いものの、エアコンに動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ホームセンターは、エアコンや資材等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。百貨店は、衣料品等に弱さがみられることから、全体としては弱含んでいる。乗用車の新車登録・届出台数は、軽乗用車は前年を下回っているものの、普通車及び小型車は前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。観光は、国内観光客が増加していることなどから、緩やかに回復している。旅行は、国内旅行は緩やかに持ち直しつつあり、海外旅行は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 米は、販売単価が下がっているが、それに見合うほど販売数量は増えておらず、売上げが大幅に減少している。一方で、地元産の野菜や果物の売上げが好調となっている。（スーパー）
- ➢ 価格上昇の影響から牛肉の販売が低調に推移しているなか、価格上昇が比較的緩やかな豚肉や鶏肉へのシフトがこのところ顕著にみられる。（スーパー）
- ➢ 販売促進の効果により、ファーストフードやソフトドリンクの売上げが好調。（コンビニエンスストア）
- ➢ 販売促進や新商品発売の効果により、化粧品の売上げが大幅に増加している。（ドラッグストア）
- ➢ 冷凍食品は、需要の高まりから売行きが引き続き好調に推移している。（ドラッグストア）
- ➢ エアコンは、2027 年の省エネ基準引上げを控えた買い換え需要が引き続きみられることから、売上げが増加している。（家電大型専門店）
- ➢ パソコンは、昨年の一部 OS のサポート終了に伴う買い換え需要の反動により、大きく売上げが減少している。（家電大型専門店）
- ➢ エアコンは、2027 年の省エネ基準引上げに対する普及価格帯商品への買い換え需要で、売上げが増加している。（ホームセンター）
- ➢ 梅雨明けが前年より遅かったことなどにより、客数に影響があった。（百貨店）
- ➢ 夏場の猛暑により、秋物衣料の動きが鈍かった。（百貨店）
- ➢ コンパクトカー人気や自動車税環境性能割廃止を待った層の登録・納車が続いている。（乗用車）
- ➢ お盆期間は長期休暇を取りやすい曜日並びで、前半から予想を超える客入りだった。（観光）
- ➢ 燃油サーチャージ引き下げ等プラス材料があるものの、為替の影響による費用の高騰や物価高による節約志向の高まりから国内旅行にシフトしつつある。（旅行）

■ 生産活動 「持ち直している」

化学は、国内外の堅調な需要のもと、受注が増加していることから、持ち直している。汎用・生産用機械は、国内外の堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。電気機械は、データセンター向けの需要の増加などから、緩やかに持ち直しつつある。食料品は、一部に弱さがみられることから、横ばいの状況にある。

- ➢ 工業向け薬品について、国際的な価格競争力の高まりを背景に、生産量が増加。（化学）
- ➢ 設備投資向けの需要が好調なことから、高操業による生産が続いている。（汎用・生産用機械）
- ➢ データセンター向けを中心とした AI 関連需要の拡大を背景に、生産量が増加。（電気機械）
- ➢ 米の代替品としてニーズがあった製品の需要が減少。（食料品）

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を上回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI をみると、9 月末は全産業で 32.3%ポイントと「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は続いている。

- ➢ 企業が求める人材と求職者との間にミスマッチがみられ、求職者の就職決定が進まず、有効求職者数の増加につながっている。(労働局)
- ➢ 卸売・小売業を中心に人手不足感が継続しており、企業による大規模な求人募集など積極的な動きがみられる。(労働局)
- ➢ 製造現場で必要となる資格の保有者が不足しており、生産ラインの稼働率の引下げなどの対応を実施している。(鉄鋼)
- ➢ 運転手が不足している。ハローワークや民間求人サイトで募集をかけているが、応募があっても当社の希望する人材とマッチしない。(運輸)

■ 設備投資 「8 年度は前年度を下回る見込み」 (全産業)「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 非製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、製造業で前年度を下回る見込みとなっており、全体としては前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「8 年度は増益見込み」 (全産業)「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっており、全体としては増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

○ 新設住宅着工戸数でみると、持家及び分譲は前年を上回っているものの、貸家は前年を下回っていることから、全体としては前年を下回っている。

- ➢ 注文住宅では、金利や物価の更なる上昇を予想し、今まで様子見していた層が購入に踏み切る動きがあった。(建設)

■ 公共事業 「前年度を下回っている」

○ 前払金保証請負金額でみると、県は前年度を上回っているものの、国、独立行政法人等及び市町村は前年度を下回っていることから、全体としては前年度を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (8 年 7 月判断)	今回 (8 年 10 月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	緩やかに持ち直している	**持ち直している**	↗	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
徳島県	緩やかに持ち直しつつある	**持ち直しつつある**	↗	個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
愛媛県	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
高知県	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。